

## 臓器移植推進出前講座を実施しました。

臓器移植について、平成22年に臓器移植法が改正され、親族の同意による臓器提供及び15歳未満児からの脳死下での臓器提供が可能になるなど移植が推進されるよう制度が整備されました。

しかしながら、その後も心臓死を含めた臓器提供者数は顕著な増加を示さず、現在でも海外の臓器移植に依存する患者は後を絶ちません。

一方、米国等先進国で行われている現在の医療で、移植医療は特別なものではなく、臓器移植により多くの命が救われるなど、必要かつ不可欠なものとなっています。

そのため、医療従事者等に臓器移植の重要性を啓発するため、講師を派遣し出前講座を実施しております、特に医学生には臓器移植の現状と課題についてご理解いただきたいことから、今年度千葉大学のご協力のもと医学部2年生の授業で出前講座を実施しました。

- 1 日時 平成26年4月16日(水)
- 2 場所 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部教室
- 3 対象 千葉大学医学部2年生 120名
- 4 講師 日本臓器移植ネットワーク 東日本支部  
臓器移植コーディネーター 中村 善保
- 5 プログラム
  - (1) 臓器移植の法令上の規定
  - (2) 移植医療の歴史
  - (3) 臓器提供 ①脳死後 ②心停止後 ③健康な人からの臓器の部分提供
  - (4) 脳死と植物状態
  - (5) 日本における移植医療の現状
  - (6) 日本と海外の移植医療
  - (7) 臓器移植コーディネーターが実際に行っている内容
    - ① ドナー、家族・遺族との実際の調整
    - ② レシピエントとの実際の調整
    - ③ 臓器摘出、移植の現場で感じる課題
    - ④ 臓器移植コーディネーターから、将来の医師へのコメント
  - (8) ドナー遺族及びレシピエントの話、レシピエントの移植後の姿等をビデオ上映



受講した120名の学生さんからは

- ・「移植コーディネーター」について初めて知った。
- ・臓器移植について（意思表示する等）改めて考える良い機会となった（講義だった）。
- ・日本には移植に関して高い技術力があるが、提供者が先進国に比べ少ない。

など、沢山のコメントがあり有意義な講義だと感じていただきました。

また、当日「千葉日報」の記者の方が取材に来てくださり、翌日の17日の新聞に掲載して頂きました。

千葉日報 平成26年4月17日 掲載

